

82 明治16年9月25日 菊池多代

横田おは様もよろしく本宿殿を御手つ代金おまいハ八円と咄し候よし末次郎さんハ七円と申よしとちらか本とうかしらせて被下度と申参り趣なれ共おは様八円共七円共不申山本殿は何ほとなり御心さし次第と申遣趣しかるに宅命殿を申くるニハ此セつふつこふニ付五円にまけてくれると申参りよし今の所ニてハ米もかへ不申又田地を出る米くい候内ハ間ニ合セと出るかもしれ不申とうぞその内に皆殿の御せわにて何ニか有づき少しもおくりくれ候ようなれハよいと御咄しニ御座候御同人様もすこく御まめしく八まん様の御まつりニも手前を御□しい上候ておはア様おは様二日長屋ニ御出被成候山本殿を御出被成皆も遣私し

も参り遊申候何もこれ無ま事ニさみしく御座候金つまりのため  
ニ候半東京もしはいへよしはいなつと申事きゝました昨ねん今  
頃ハ私し其元居ておもしろい事計りあつたと思出し咄し致した  
のしミ居候くわ代も三円うら田を参り候横田殿の方も五十銭計  
り出そうニ候へ共今夕参りしおふせに候ましおくのとして御も  
らへ申候ありかたく御礼申上候いつれけんやくしてくらし申可  
と心かけ居候此内ニしんそうかゝり并色々又申上可候以上

廿五日

武夫殿

(同封) 明治16年9月25日 菊池ぬち宛菊池多代

久々御不きた計り申居候先日御□□と御□被下毎度嬉しく先々  
皆まかきもいよ／＼まめしく相成候よし何ぞ安心おはア様悦居  
おまいも道中にてふとけり致し候よしとごもくあいあしくなら  
しや東京のいしやも見せ候やうつ身とか申て寒くにいたみても  
おこるようてハあしくと御安事申居候まかきハたつしやにはい  
候哉けいほうのたつしやなる事今夕たつ事出す候へ共二かいの  
はしこたんエとり付一人りにて上る事三ツ四ツハくなしに登り  
右之のことくゆへ少しも目はつし出来不申かをるもよほとおと  
なしく相成候毎度御願計り申上候へ共おくのおすみを御願ニ御  
座候ゑりおしろいか内エ付而おしろい水欵御下し被下度代ハ久

平登りニ壹門さし上候間候へにおしろいよいほとこのりにてか  
をるしゆはんのゑりやあみかけしるようなきれ赤へかのこなり  
あさのはなり御下し被下度おまへのきせるも出来居候へ共久平  
ハいつか登りか頼置候用事計り申上候時こふおしのき成可いそ  
き早々次ニゆる／＼申上候 めてたく かしこ

九月廿五日

おるちとの

たよ

(封筒裏)

「東京々橋区賀々町拾八番地

(消印1)

菊池 武 夫 と の

無事

(封筒裏)

「 外加賀の(消印4)

(消印2)

(消印3)

菊池多代より

(消印1・2・3)

「盛岡・陸中・九・二五・午後

(消印4)

「東京・一六・九・三〇・ヌ